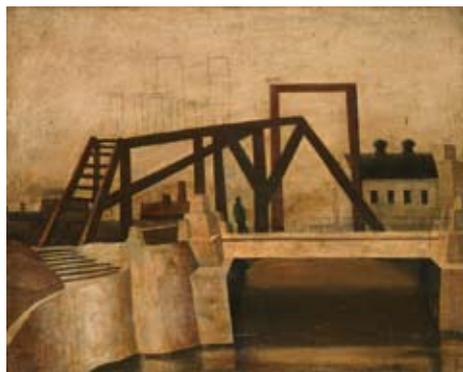


MATSUMOTO Shunsuke: A Centennial Retrospective

生誕100年

松本竣介展



《Y市の橋》1944年頃 個人蔵

「私は今、街の雑踏の中を原つばを歩く様な気持で歩いてゐる。」

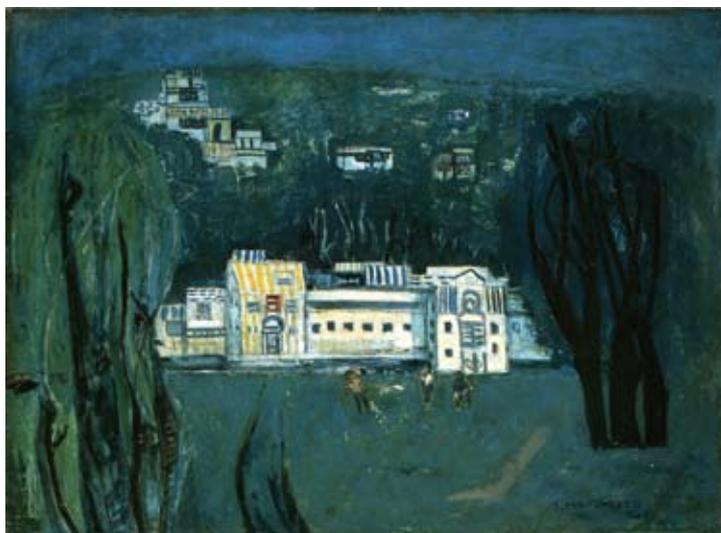


《りんご》1944年 株式会社小野画廊



《黒い花》1940年 岩手県立美術館

松本竣介（1912-1948）の生誕100年を記念した回顧展。太平洋戦争下の過酷な時代に、画家として、人間として、充実した生をまっとうした松本竣介は、36歳という若さでこの世を去りましたが、その後も日本の美術にとって、ひとつの里程碑であり続けてきました。本展では、代表作《立てる像》などの油彩画約120点のほか、彼の創作の手掛かりとなる素描作品も多数紹介。さらに友人宛の書簡なども合わせて展示し、人間としての松本竣介像にも迫ります。



《郊外》1937年 宮城県美術館

2012年6月9日 [土] - 7月22日 [日]
神奈川県立近代美術館 葉山

〒240-0111 神奈川県三浦郡葉山町一色 2208-1 Tel.046-875-2800

開館時間：午前9時30分 - 午後5時（入館は午後4時30分まで）

休館日：月曜日（7月16日は開館）

観覧料：一般 1000円（900円）、20歳未満・学生 850円（750円）、
65歳以上 500円、高校生 100円

※（ ）内は20名以上の団体料金です。

※中学生以下、障害者手帳をお持ちの方は無料です。

※ファミリー・コミュニケーションの日：

毎月第一日曜日（今回は7月1日）は、18歳未満のお子様連れのご家族は優待料金（65歳以上の方を除く）でご観覧いただけます。

主催：神奈川県立近代美術館、NHK 横浜放送局、NHK プロモーション
制作協力：NHK プラネット東北

■お問い合わせ先

神奈川県立近代美術館 葉山
〒248-0005 神奈川県三浦郡葉山町一色 2208-1
tel. 046-875-2800 / fax. 046-875-2968
広報担当：土居、長島 展覧会担当：長門、土居

■美術館についての最新情報は、
ホームページでもご覧いただけます。
<http://www.moma.pref.kanagawa.jp>
モバイルサイトはこちら→



< 展覧会概要 >

昭和前期の日本美術界に大きな足跡を残し、36歳で夭折した画家松本竣介。1912（明治45）年に東京で生まれた松本竣介は、少年時代を岩手で過ごしました。そして、中学入学を目前に病気で聴力を失ったことをきっかけの一つとして画家を志します。上京後は太平洋画会研究所へ通い、麻生三郎、鬮光ら同世代の画家たちと交流を持ちながら制作に取り組み、1935（昭和10）年、第22回二科展に《建物》で初入選。以降、建物や人々が幾重にも重なり合う都会風景や、大地に立つ自らの姿を大画面に描いた《画家の像》などの代表作を発表しました。

1936年にはデッサンとエッセイによる雑誌『雑記帳』を創刊するなど、文芸活動にも取り組みます。しかし、新たな世界を構築しようとしていた矢先の1948年6月、病のためその短い生涯を閉じました。

日中戦争から太平洋戦争へと戦争が拡大し、敗戦を迎えるという過酷な時代に、画家として、人間として、きわめて充実した生をまっとうした松本竣介は、突然訪れた死による中断にも関わらず、その後の日本の美術にとってひとつの里程碑であり続けてきました。



《橋（東京駅裏）》1941年 神奈川県立近代美術館

[展覧会関連企画]

■講演会1 「松本竣介と都市風景の発見」（仮題）

講師：海野弘氏（美術史家）
日時：7月7日（土） 午後2時～4時
会場：神奈川県立近代美術館 葉山 講堂
定員：70名（要申込、先着順）、無料
申込方法：住所、氏名、電話・Fax番号、メールアドレスをご記入の上、Faxまたはメールでお申し込みください。
申込先：Fax. 046-875-2968 メール public@moma.pref.kanagawa.jp

■講演会2 「松本竣介とその時代」

講師：長門佐季（当館主任学芸員）
日時：7月14日（土） 午後2時～4時
会場：神奈川県立近代美術館 葉山 講堂
定員：70名（申込不要、当日先着順受付）、無料

■学芸員によるギャラリートーク

6月16日（土）、6月30日（土） 各回午後2時から
申込不要、無料（観覧券が必要です）



《R夫人像》1941年 神奈川県立近代美術館

松本竣介という画家の存在が、初めて公立美術館で大きく取り上げられたのは、神奈川県立近代美術館で1958年に開催された島崎鶏二との二人展でした。

それから半世紀以上を経て、当館のコレクションの中でも最も重要な位置を占める画家松本竣介の全貌を、本展では作風や描かれたテーマに応じて全体の構成を4章に分けて紹介、代表作の油彩画約120点のほか、彼の創作活動を知るうえでの手掛かりとなる素描作品約60点も展示します。また、当時の写真や友人宛の書簡などの資料類も合わせて展示し、人間としての松本竣介像にも迫ります。

今年生誕100年を迎える松本竣介の画業は、今なお多くの人の心を捉えて離しません。静謐な中にも深い詩情をたたえた松本竣介の世界をお楽しみください。



《彫刻と女》1948年 福岡市美術館